

# 令和5年度 東京都小学校学校行事研究会 研究主題及び主題設定の理由

## 1 研究主題

よりよい社会を自ら築く力を育てる学校行事の創造  
～「仲間」「本物」「感動」そして「共生」へ～

## 2 主題設定の理由

新型コロナウイルス感染症の流行により、ここ数年大変な状況が続いていたが令和5年度になってから社会全体が少しずつ、かつての生活に戻り始めている。また、学校においても制限が緩和される中、コロナ禍で培った知見を基に各校の実態に応じながら、様々な行事においても工夫をすることで、それぞれの行事のねらいに迫ろうと試行錯誤しながら実践を重ねている。また、以前にもまして「何のための、誰のための学校行事なのか」という問いもちながら各校では行事の意義を再確認しているところではないだろうか。これまで学校行事が果たしてきた心が揺さぶられるような感動体験を仲間とともに味わう時は今であると考える。

本研究会では、現行学習指導要領が告示された平成29年度にこの研究主題を設定し、研究を重ねた上で、「よりよい社会を自ら築く力を育てる学校行事の創造」が必要であると考えた。学校行事を実践していく上で私たちが常に大切にしていきたい考え方として、今年度も本研究主題を継続して掲げ、研究を進めていくこととした。

学校行事は全校又は全学年の児童が行う活動であり、その時間や空間のダイナミックさから大きな感動につなげることができる。仲間と役割を分担し、自ら責任を果たしながら目標に向かって努力するからこそ、当日の特別な思いに至ることができる。そして、振り返りを通して自分のよさや友達のよさに気づき、互いを認め合い尊重する集団へと育っていく。また、事前・事後の活動も含めて、集団の中で互いに支え合い、役に立つ喜びや所属する安心感を味わうことを通して、自己有用感や自己効力感を高めていくことができ、それが自尊感情の向上にもつながる。

本会では、「よりよい社会を自ら築く力」を、「集団による体験活動を通して、周囲の人や社会に関心をもち、他者と関わり合ってよりよく生きようとする意識や態度」「未来に生きる社会を創り、その社会を運営しつつ、その社会を時代の変化とともに絶えず創り変えていくために必要な資質・能力」と捉えた。各学校で行われている学校行事が「主体的・対話的で深い学び」を実現しようとしているかを押さえ、教師主導の形骸化しがちな内容や運営方法、指導方法を見直し、特別活動全体のつながりの中で創り上げられる学校行事本来の役割と有効性を提唱し、子供たちに、平和で民主的な社会を築き、そこに生きるための汎用的な能力を育みたいと考え、本研究主題を設定する。